

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2012年 1月 3日

派遣者氏名（専門分野）	藤本百々子（演劇学）
-------------	------------

派遣期間	2012年 10月 8日 ～ 2012年 12月 18日
------	------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
英国	ロンドン	大英博物館、大英図書館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

（大英図書館）

利用申請以前に、同館は所蔵文献のほとんどを書庫に収納する閉架式図書館である。よって調査対象である文献が同館に所蔵され、かつ同館でのみ閲覧可能な場合に、その利用が適当である。ゆえに同館 HP の Main catalogue ないし既刊の目録を使い、調査対象である文献の所蔵の有無を確認することが、訪問以前に必要な作業となる。

日本語文献については、その検索方法がいささか複雑である。というのも、現時点の同館蔵の全日本語文献が一括入力されたデータベースが存在しないからだ。近世以前に刊行された日本語文献に関しては、同館 HP の Main catalogue では検索できず、川瀬一馬・岡崎久司編『和漢書総目録 大英図書館所蔵』（1996年、講談社）を用い所蔵の有無を確認する。先の目録の対象外となった日本語文献については、Main catalogue で検索をすることになる。ただし Main catalogue は出版年を用いたデータの絞り込みができないため、そのような検索方法を望む場合は、同じく同館 HP 上の Specialist catalogues 内にある UK Union Catalogue of Japanese Printed Books and Serials を用いる。これらの手順を踏んだ上でも、調査対象である文献の所蔵の確認が取れない場合にのみ、同館日本部に直接問合せをする（連絡先は同館 HP を参照のこと）。

上の要領で所蔵の確認をした後、閲覧室の入室に必要な入館証(Reader Pass)を取得するため、事前登録をネットで済ませる(pre-register online)。事前登録をしておけば、閲覧日当日に閲覧文献の詳細、ないし司書と連絡を取った場合はその写し、加えて身分証2点(詳細は同館 HP 参照のこと)を持参すれば、口頭面接の後入館証が速やかに発行される。事前登録は必須ではないが、入館証の発行手続きを短縮できる利点がある。さらに事前登録の後、pre-registration Reader Number が通知される。これは以下に述べる、閲覧希望文献の取り寄せ手続きに必須の番号であり、この取り寄せ手続きをしておけば、閲覧希望日に希望文献を速やかに出納してもらえらる利点もさらにある。

次に、閲覧希望文献の取り寄せの手続きを行う。前述の通り、閉架式図書館であること、あるいは複数の分館を有しているため、閲覧日当日に希望文献を閲覧したければ、利用する閲覧室に文献を事前に取り寄せする必要がある。その取り寄せの手続きにはパスワードの作成が必要であり、まず同館 HP の Explore the British Library からログイン画面に進み、新規パスワードを作成する(この時、先述の Reader Number が必要である)。その後、ログイン画面に再び戻りログイン後、Reservation List の画面を開き、日本語文献の場合は Catalogue の項目から Asia, Pacific and Africa Collection を選択する。その後画面が遷移するので、次ぎに表示された画面にて、Catalogue の項目中、版本の場合は Asia, Pacific and Africa Printed Books and Serials を、写本の場合は Oriental Manuscripts を選択し、以下の項目も適宜埋めること(調査者の場合は請求記号のみを入力し、取り寄せ手続きを完了させた)。その後、Go というボタンを押す。その

後、依頼した文献が一行毎に画面に表示されるので、各文献の Action 欄の request という文字をクリックすると、画面が再び遷移する。その新たに表示された画面内で利用したい閲覧室を選び、再び Go をクリックし取り寄せ手続きは完了である。文献によっては、同館内の端末からしか取り寄せ依頼ができない物、閲覧室の選択ができない物、ないし版本・写本の区別が学術上のそれとは異なる物がある。それらは手続きの進行中判明することであるも、念頭に置くべきであろう。特に版本・写本の区別については、同館も学術的区別に従いながら分類するが、版本であるが弧本の場合はその貴重性ゆえ写本に分類される等、同館の諸事情により、学術的区別から離れることがある。一方この区別を間違えば、取り寄せ依頼が適切になされず、希望文献の閲覧が叶わない。したがって文献の取り寄せが遅れている場合は、版本・写本の区別の誤りを疑い、各閲覧室に設けられている Reference Desk、ないし Issue Desk の司書に相談すること。上の要領で閲覧希望文献の取り寄せを行った後、入館証持参の上、希望ないし指定の閲覧室にて閲覧が初めて可能となる。

(大英博物館)

同館 HP に所蔵品のデータベースが存在するので、それを基に所蔵の有無をまず確認する。同館所蔵の日本の版本ないし版画については、立命館大学の協力のもと撮影が行われ、それらの画像が先のデータベースに解題と共に掲載される場合もある。よって所蔵の確認と同時に画像も併せて確認し、現物調査が必要か否かを調査者自身が確認の後、閲覧の要がある場合のみ、担当部署に連絡の後、閲覧の手続きを進める。連絡先は、同博物館 HP 記載のアジア部門のメールアドレスである。

その後アジア部門が有する、毎週水曜日 11 時から 13 時まで開室している閲覧室を、閲覧希望日の 1 ヶ月前までに閲覧希望日を先方に通知の上、予約を済ませる。その時、滞在先住所・電話番号・閲覧希望資料の詳細も併せて通知する必要がある。

なお同博物館は資料の撮影が許可されており、またその許可申請も、閲覧日当日に撮影許可申請書に撮影資料の詳細を記入するだけと容易である。ただし入手した画像は後日公開の場合は、同博物館に画像の使用許可を改めて取ることが必須である。また水曜日の午後は、研究者を除く一般の利用者に先の閲覧室が公開されているが(予約制)、予約状況次第で空きがあれば、研究者が午前から引続き利用することが許されることもある。利用時間も含めた閲覧室の使用の詳細については、同室在中の職員が閲覧日当日に適宜説明をするので、彼らの指示をよく聞くことが肝要である。最後に先の図書館とは異なり、入館証、及び身分証の一切が不要であることも念のために記しておく。